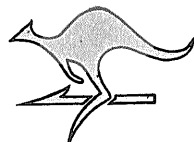


# オーストラリア大陸を尋ねて

(その3)



大町北一郎

## オーストラリアの経済地理

さて今回はオーストラリア大陸の交通機関 通貨 および貿易等についておしらせすることにした。まずオーストラリアはどんなものを輸出し どんなものを輸入しているかという点 第1表 第2表に示されるように 輸出品としては 原羊毛・原皮が全輸出額の約38% (1961) 小麦が約13% (1961) を占め この両者を合わせると約51%となる。これからがオーストラリアの重要輸出品であることは 戦前 戦後を通じて大きく変化はしていない しかし 2次製品の輸出も少しづつではあるが増大しつつある。輸入品については金属加工品 諸機械製品 電気製品 航空機等の輸入額が全輸入額の約40%で 次いで石油が約10%を占め この両者で約50%となり 2次製品の輸入がいかに大きな位置を占めているかがわかると思う。この表で とくに興味をひくのは オーストラリアは 日本に多量の一次資源を輸出 (1億8,700万オーストラリア・ポンド) していることでその額は英本国について 第2番目で全輸出額の約17%も占めているが オーストラリアが日本から 輸入している額はわずかに4,900万オーストラリア・ポンドでオーストラリア全輸入額の約5.5%にすぎないということである。したがってオーストラリアは輸出額において 日本と英本国は ほぼ同額に近いが輸入額については 英本国が全体の約30%も占めているのにたいして 第1表 オーストラリアの輸出品とその価格 (1961~1962)

(単位:100万オーストラリア・ポンド)

輸出品*	金額 (F.O.B)	輸入品*	金額 (F.O.B)
1. 原羊毛・羊皮	397	1. 食料品	39
2. 小麦・小麦粉	160	2. タバコ	10
3. 雑穀	31	3. 原綿	6
4. 牛肉	90	4. 織物およびス織物	23
5. パタ	24	5. 織物	72
6. チーズ 卵 ミルク クリーム	15	6. 衣服	9
7. 砂糖	34	7. 石油	102
8. 石油製品	22	8. 鉄鋼	19
9. 亜鉛 (精鉱 棒)	12	9. 自動車および部分品(航空機をふくむ)	69
10. 鉛 (精鉱 地金 粗鉛)	24	10. 電気機械製品類	48
11. チタン ジルコン (精鉱)	5	11. トラクターおよび部品	15
12. 鉄鋼	43	12. その他機械製品	164
13. 自動車および部分品(航空機をふくむ)	10	13. 天然ゴムおよび人造ゴム	12
14. その他	202	14. 木材	15
		15. パルプ 紙 板	38
		16. 薬品 肥料 化学薬品	58
		17. その他	184
(合計)	1,069	(合計)	883

\*金鉱を除く  
\*オーストラリア1ポンドは約808円

(資料: Australia Today, Oct. 10, 1962  
Melbourneより)

日本はわずか5.5%にすぎない状況からみても 英本国を始めとして 英連邦諸国に優先権を与えていることがわかる。それはオーストラリア国内を旅行しているとよくわかることである。たとえば石油精製を例にとると その大部分 (飛行場 ガソリンスタンド等で使用されているもの) は いわゆる B. P. (British Petroleum Australia Limited) によって経営されている。その他電気 貨車 機械等の公共機関で使用されるものは英本国を規準にしているので これらの部品類はすべて英本国から輸入されているのであるが 第2次大戦以後は 英本国の会社を始めとして著名な諸外国の会社との合弁会社ができている。たとえば ラジオ テレビ社はオランダ系の Philips Australia Limited Co., とか西ドイツ系自動車会社の Volks Wagen Australia Limited Co., アメリカの General Motors 系資本が約45%入っている **Holden** (ホールデン) 自動車会社 (一般のオーストラリア人にいわせると唯一のオーストラリア資本による国産車と自慢している たしかにじょうぶな車でオーストラリア人の約90%近くはこの車を使用している) 等があり その他化学工業から軽工業と2次製品を製造する会社が多くなり これら諸会社の工場がメルボルン郊外とかシドニー郊外に建設されているのが 車の中からみられた。

さて 日本とオーストラリアの貿易関係についてさらに詳しくみると 日本の輸入額について各国別 (第3表) にみると オーストラリアは アメリカについて2番目に位置しているが 輸出額については9番目である。

では現在どんなものをオーストラリアから輸入しているかという点 第4表に示したとおりで 金額比率からみると約70%は 原毛(羊毛)と石炭である。今後鉄鉱石を輸入するとなれば オーストラリアからの輸入額は大幅に増大するものと思われる。なお前回でも説明したが 日本の通関統計からみた鉄産物の輸入状況 (通産省発表) は 第5表で示されるように 鉄鉱石として扱われているのは 脱銅硫酸焼鉱 (Fe 60~61% Cu 0.02~0.04%) のことで 1960年ころから日本に輸出されている。なおこの他に日本はチタン鉄鉱 金紅石 オパール等も輸入している。この他の一次産業の状況を参考までに説明すると まず 主要穀物類の生産量は 第6表に示したとおりである。

第2表 オーストラリアの輸出国名と輸入国名別にみた輸出入価格(予定)と比率(1961~1962)

(単位: 100万オーストラリア・ポンド)

輸 出 国 名	輸 出 額 (F.O.B)	(比 率) (%)	輸 入 国 名	輸 入 額 (F.O.B)	(比 率) (%)
1. 英 本 国	206	19.1	1. 英 本 国	226	30.1
2. カ ナ ダ	18	1.7	2. カ ナ ダ	34	3.8
3. ニュージーランド	59	5.4	3. イ ン ド	16	1.8
4. その他の英連邦国	131	12.2	4. マ ラ ヤ 連 邦	11	1.2
			5. ニュージーランド	14	1.6
(英連邦諸国の小計)	(414)	(38.4)	6. その他の英連邦諸国	63	7.1
			(英連邦諸国の小計)	(364)	(45.6)
1. ベルギー・ルクセンブルグ	23	2.1	1. ア ラ ブ 連 合 国	29	3.3
2. フ ラ ン ス	52	4.8	2. 西 ド イ ツ	52	5.9
3. 西 ド イ ツ	40	3.7	3. イ ン ド ネ シ ア	26	2.9
4. イ タ リ ア	52	4.8	4. イ ラ ン	21	2.4
5. 日 本	187	17.4	5. 日 本	49	5.5
6. ポ ー ラ ン ド	10	1.0	6. ア メ リ カ	174	19.7
7. ア メ リ カ	109	10.0	7. そ の 他 諸 国	130	14.7
8. そ の 他 諸 国	191	17.8	(非英連邦諸国の小計)	(481)	(54.4)
(非英連邦諸国の小計)	(664)	(61.6)	(総 計)	(845)	(100.0)
(総 計)	(1,078)	(100.0)			

(資料: Australia Today, Oct. 10, 1962, Melbourneより)

第3表 日本の主要諸国間の輸出入額(1961)

(単位: 百万円)

国 名	輸 入 額 (主要品名)	輸 出 額 (主要品名)
1. ア メ リ カ	748,574 (棉花 豆 小麦 大豆 豆油)	378,347 (機械 衣服 鉄鋼 農産物)
2. オーストラリア	162,641 (羊毛 石炭)	36,090 (綿織物 穀類 鉄鋼 魚介類)
3. カ ナ ダ	95,678 (小麦 豆 豆油)	41,989 (機械 衣服 鉄鋼)
4. マラヤ・シンガポール	80,674 (鉄鋼 豆 小麦)	47,772 (機械 鉄鋼)
5. 西 ド イ ツ	69,540 (機械 合成染料 繊維)	30,042 (衣服 機械 魚介 化学機器 化粧品)
6. フ イ リ ピ ン	56,165	46,145
7. イ ギ リ ス	49,356	41,278
8. メ キ シ コ	48,596	7,604
9. イ ン ド	39,924	39,989
10. イ ン ド ネ シ ア	30,663	55,512
11. タ イ	28,193	48,193
12. 台 湾	24,389	34,676
13. ベ ル ー	24,185	6,298
14. アルゼンチン	23,421	14,872
15. ブラジル	22,057	30,971
総 額	1,504,056	859,778

(資料: 大蔵省外国貿易月表による)

第4表 日本のオーストラリアからの輸出入額(1961)

(単位: 1,000ドル)

商 品 名	輸 入 額	商 品 名	輸 出 額
1) 食料品 (牛肉 小麦 大麦 砂糖)	38,224	(1) 食料品 魚介(さけ ますのかん 鮭) グルタミン酸ソーダ	6,241
2) 原材料 (原皮 原羊毛 ウールトップ 鉄くず 非鉄金属くず 銅鉱 鉛鉱 亜鉛鉱)	333,015	(2) 原材料	468
3) 鉱物性燃料 (石炭)	39,438	(3) 化学品 酸化チタン 合成プラスチック材 化学肥料 原素	5,842
4) 動物性油脂 (牛脂)	962	(4) 繊維品	47,427
5) 化学品 (ミルクカゼイン)	2,186	(5) 陶器 ガラス クイル	4,889
6) 鉄鋼および合金類	37,954	(6) 金属製品	11,331
(合 計)	(451,779)	(7) 機械機器 ミシン ラジオ トランジスターラジオ 自動車 自動自転車 カメラ 時計	11,789
		(8) その他 おもちゃ 合板 真珠 はき物 紙 ライター	12,262
		(合 計)	100,249

(資料: 昭和37年通商白書 P. 527-530, 1962)

第5表 日本がオーストラリアから輸入している主要金属および鉱物資源

鉱 産 物 品 名	数 量 (Mトン)	金 額 (1,000ドル)
1. 燐 鉱 石	1,422	32
2. 塩	27,762	266
3. 石 綿	1,698	426
4. 鉄鉱石(硫酸焼鉱)	172,298	1,693
5. 鉄 屑	218,827	11,989
6. 銅 鉱 石	101,697	14,089
7. ボーキサイト	41,463	471
8. 鉛 鉱	29,058	3,785
9. 亜鉛 鉱	84,758	4,024
10. マンガン 鉱	53,647	2,150
11. 銅 くず	581	361
12. アルミニウムくず	443	161
13. 銅合金くず	10,097	5,259
14. 石 炭	2,560,998	36,649
15. 無煙 炭	2,134	37
16. 強粘結 炭	1,637,196	23,450
17. 弱粘結 炭	692,265	9,970

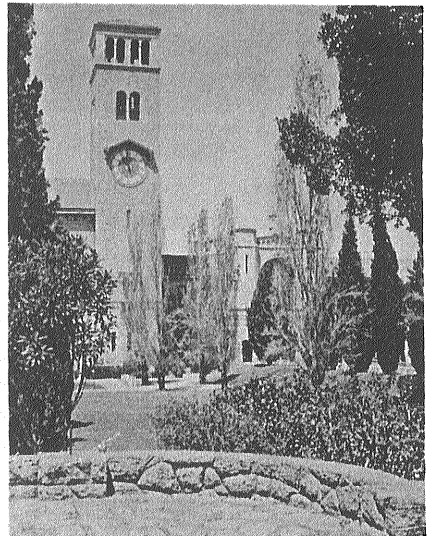
(1961年1月~12月)大蔵省商品別 国別通関実績統計表 輸入の部(II)より

第6表 オーストラリアの穀物類生産量(1960~1961)

単位(※: 1,000ブッシュ, ※※: 1,000トン)

※ 小 麦	273,716
※ からす麦	76,107
※ 大 麦	67,970
※ とうもろこし	6,245
※※ さとうきび	9,166
※※ まぐさ	5,079
※※ ジャがいも	451
※※ ホ ッ プ	1,655
※ オレンジ・マンダリン・レモン等	6,726
※※ ぶ とう	526
食 用	(19)
乾 燥 用	(325)
酒 用	(182)

(資料: Australia Today, Oct. 1962より)



1) 西オーストラリア大学構内の時計台と付属図書館(西オーストラリア州 パース市郊外)

この穀物類（農耕地の総面積 22,017,000 エーカーといわれている）の中には米がないが 最近は少量であるが米もつくられている。 私たちもキャンプ生活で何回かライス・ボール（にぎりめし）をつくって食べたが日本の米よりおいしかった。 イタリア移民が多くなってきたので米を食べる量が多くなってきたといわれている。 野菜はキャベツ トマト 赤かぶ たまねぎ グリーンピース等日本と同じものがある。 またくだもの類は大部分が地中海型気候を示す地域にみられ オレンジ マンダリン パイナップル レモン あんず りんご さくらんぼ バナナ すいか もも等が都会のくだもの屋の店頭にたくさんならんでいた。 とくにりんごはタスマニア島の特産といわれるもので 別名アップル島（りんごの島）ともいわれている位である。 レモンはとてややく 日本で1コ70~80円もするサンキストのレモンが2~5円位で売られている。 魚屋の店先ではレモンを真中から切ってその上に魚をならべて うっているのがみられた。 しかしオーストラリアでも北部地域にゆくとカン詰のくだものしか食べられない。 次にオーストラリアのトレード・マークともいうべき酪農製品 羊毛 家畜 肉類 についてみると その生産状況は第7表に示すとおりである。 そして その大部分は輸出されているがとくに肉を食べる国民として オーストラリア人は年間消費量が世界一といわれている。

この肉であるが 牛肉 犢の肉 仔羊の肉 カンガールの肉と色々の種類を食べたが レストラン ホテルなどで出てくる肉はだいたい おいしかったが量と大きさが日本では想像もつかないほどで 私のように胃袋の小さいものには食べきれない。 初めから小さいのにすればよかったが おいしいビフテキを食べたいといったら厚い大きな肉を出され 残すのは失礼とおもって ビールをのみながら 30分以上もかかって食べたが これはむしろ のみこんだといった方がよいかもかもしれない。 それでもウエイトレスのおばあさんが 「おいしいか」とききにきたので こちらは味どころではなかったが 「たいへんおいしい」とこたえておいた。 しかし これとは別に シドニーの動物園で食べた ミート・パイ

(Meat Pie) の味とかシドニー郊外にピクニックにいったとき ご馳走になった ランプ・チョップ (Lamb Chop) と ソーセージ (オーストラリアには 色々な種類のおいしいソーセージを売っている) のバーベキュー (Barbecue) のうまさは いまでもときどき思いだされる。 しかしキャンプで食べたカンガールの肉はあまりおいしいものではなかったし 毎日の肉せめは私にとって 楽な食生活ではなかった。

ミルクもオーストラリア人はよく飲む。 たとえば 飛行場待合室で老婦人が大きなアルミニウムのコップにミルク・セーキをつくらせて飲んでいいる風景がよくみられた。 また一般に飲む紅茶には半分位ミルクを入れるのであるから ミルク・ティといった方がよい位だ。 したがってオーストラリアでは食堂とか飛行機で お茶についてきかれる言葉に “ホワイト・ティ (white tea)” または “ホワイト・コーヒー (white coffee)” のどちらをお飲みになりますかというのがあるが これはミルク入りコーヒーか ミルク入り紅茶のことで ミルクをたくさん入れたものである。 この他に食後のデザートにもミルクをたくさん入れる。 またオーストラリア人はチーズをよく食べる。 チーズは種類も多いが キャンプなどでは1人で半ポンド位はお菓子がわりにペロリと食べてしまう。 また食堂でも 酒の好きな人はデザート (オーストラリアではスイートといっている) にくだものを食べないで 野菜のついたチーズのもりあわせみたいなものを食べる人が多い。

第8表→  
オーストラリアの主要  
2次製品生産量

↓第7表  
オーストラリアの酪農  
および家畜 (肉) 状況

品 目	単 位	1960-1961
ビール	100万ガロン	236
長靴 靴 サンダル	1,000ペア	24,307
レンガ 粘土	100万トン	1,061
セメント (ポートランド)	1,000トン	2,860
洋服 (綿 羊毛)	100万sq.yards	26.5
電 力	100万kWh	24,814
電気モーター	1,000台	1,862.1
小 麦 粉	1,000ショート・トン	1,564
果 物	100万ポンド	307.9
ガス (ガス工業のみ)	100万cub.ft.	50,684
くつした 男子用	1,000doz.pr.	1,359
女子用	"	2,834
子供用	"	840
アイスクリーム	1,000ガロン	17,770
鉄 鋼		
鈍 鉄	1,000トン	3,002
粗 鋼	"	3,748
マーガリン		
食堂用	1,000ポンド	36,117
その他用	"	61,307
かん詰肉	1,000トン	49.8
新聞印刷用紙	"	88.0
ベ ン キ	1,000ガロン	11,887
冷凍用品 (国内用)	1,000ポンド	219.5
タバコ はまき シガレット	100万ポンド	58.2
野 菜 (保存用)	100万ポンド	99.0

酪農製品生産量		主要家畜の数		羊毛および肉の生産量	
乳用途別		羊	152,679 **	羊毛	1,625,106 a)
1. バター用	839,596 *	牛	17,332	牛肉と犢の肉	632,767 b)
2. チーズ用	104,470	((牛肉用 (酪農用)	12,431 4,901	羊毛	367,556 b)
3. 圧縮用	76,619			仔羊肉	206,752 b)
4. 飲料用	318,617	馬	598	豚 肉	107,458 b)
		豚	1,615	(肉の小計)	(1,314,533)

\* (単位: 1,000ガロン)

\*\* (単位: 1,000頭)

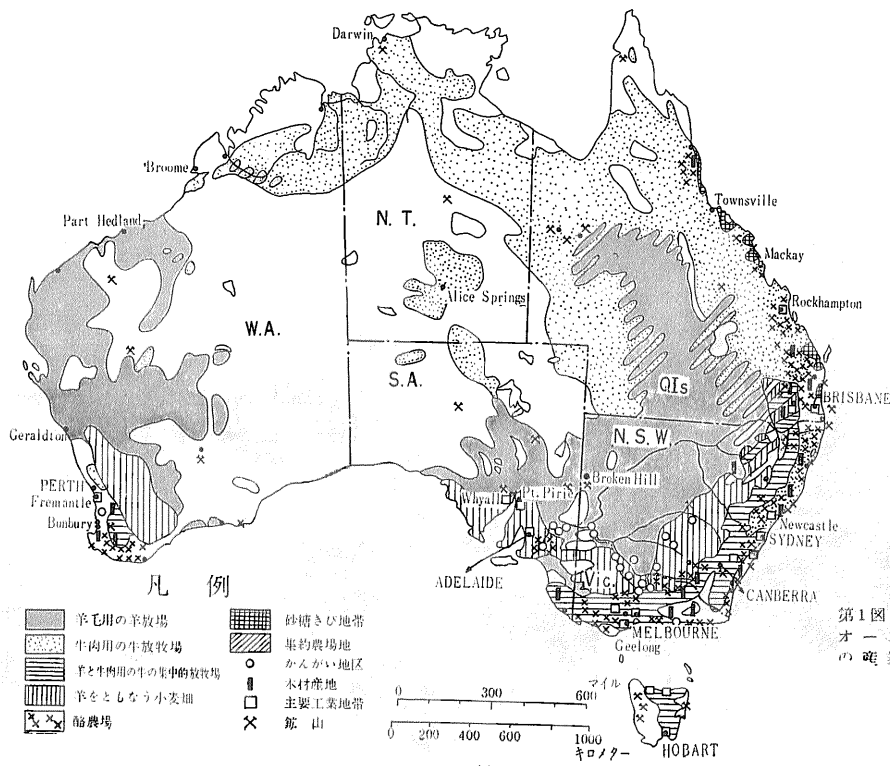
a) 単位: 1,000ポンド  
b) 単位: トン

(資料: Australia Today  
Oct. 1962より)

次に2次産業についてみると 2次産業の工場がオーストラリア全土に 57,783 工場 (1960-1962) あってそこで働く人が 1,144,732 人(1961) いる。その総賃金支払額が 1,143,836,000 オーストラリア・ポンドに達すると報告されている。また2次産業のおもな生産量は第8表に示したとおりである。このように石けんハミガキ粉 かみそりの刃 たばこ等の日用品はすべてイギリスかアメリカ系の合弁会社で生産されるものが多いようである。これらの産業分布状況をまとめたものが第1図で いわゆるオーストラリアの産業図である。

次に通貨であるが オーストラリアはスターリング・ポンド地域であるが 大都會のホテルではドルもつかえる。しかし一般にはオーストラリア・ポンドしか使用できない。すなわち オーストラリア・1ポンド (Australia Pound, 略して \$A 1) は日本円に換算 (公定レート) すると 806 円で 米ドルでは約 2.24 ドルになる。ところが 貨幣の単位はイギリス本国と同じでダースと20進法と10進法との組み合わせになっているのでなれないとたいそうまごつく。まず硬貨は銅貨のペニー貨(Penny 1ペニー)から始まる。大きさは直径 3cm もあり とても重く 電話をかけるとき以外はまず必要がない。そして一面にはカンガールがあり 他面には GEORGIUS VI D:G:BR:OMN:REX FIDEL DEF. (英国 ジョージ6世の顔がある) と入っている。

次に銀貨で **Three Pence** (3ペンス 直径 1.5cm) **Six Pence** (6ペンス 直径 2cm エリザベス2世の横顔がほられ ニッケルと真鍮の合金といわれている)がある。ここで **Penny** は貨幣そのものを指し **Pence** は貨幣価値をいうもので 3ペンスとはペニー貨が3枚ということになるそうである。略語は **d.** でこれは古いローマ時代の貨幣 **denarius** (**denarii**の複数) の頭文字をとったものだそうだ。次が銀貨の **Shilling** (1シリング) 貨で直径は 2.5cm である。これは 1シリング (**Shilling**) 2シリング (2 **Shilling**, 普通 **Florin** (フロリン) と書いてある) と紙幣 (赤茶色) の 10シリング (10 **Shilling** 又は **Half Pound** と書いてある) がある。この10シリング紙幣にはタスマニア島探検者 **Matthew Flinders**(1789~1873) を記念して 肖像画が印刷してある。また数種類のポンド (**Pound**) 紙幣がある。1ポンド紙幣 (**One Pound Note**) (暗緑色) はうらに **Charles Sturt** 大尉 (1795-1869) のシドニー メルボルン付近の探検と開拓を記念し おもてには **Hamilton Hume** (1797-1873) の探検功績を記念し それぞれ肖像画が印刷してある。次に青色の 5ポンド紙幣 (**Five Pound Note**) であるが これには **Sir John Franklin** の肖像画が印刷してある。さらに 10ポンド (**Ten Pound** 初代総督 **Governor Phillip** の肖像画が印刷されている) と 20ポンド (**Twenty Pound**) 紙幣がある。そしてすべての紙幣にはオーストラリア大陸最初の探検者であり **Endeavour** 号の船長



第1図 オーストラリアの産業図

であった **James Cook** を記念して彼の肖像画がすかして入っている。

シリングの略字は **s.** で古代ローマ時代の **Solidus** の略で **ポンド**は **L.** で同様に **Libra** の略であるようだ。たとえば 5ポンド 12シリング 6ペンス (Five pound twelve shillings and six pence) は **£5. 12s. 6d.** (又は 5/12/6) と表現する。次に単位は **12 pence** (12ペンス) で **1 shilling** (1シリング) となり **20 shilling** (20シリング) で **1 pound** (1ポンド) になる あとは 10 進法である。この他に 1ギニー (1 **Guinea**) =21 shillings=1 pound 1 shilling (1/1/0) という単位がある。これはチャールズ2世のとき(1633年)西アフリカの **Guinea** 海岸から持ってきた金でつくったから呼ばれるようになったといわれている。一般には商品の値段をギニーで表わすそうで **ウインドー**をのぞいているとよくみられる。ここでよく失敗するのは1ポンドの1割は1シリングでなく2シリング(フローリン)であることを忘れることだ。また店頭の値段表もよく 44 shilling とかいてある。これは 2 pounds 4 shilling のことで 1ポンド紙幣2枚とフローリン(Florin)貨2枚支払えばよいのである。次に店で買物をするときに1シリング3ペンスであったら 売子は「One and three」というか「One and three pence」というか「Fifteen pence」まれに「a shilling and three pence」という人もいる。ただポンドになると略さない。たとえば 2ポンド2シリング6ペンスの場合は「two pound, two and six」または「Forty-two and six pence」と答えてくるので 買物するときはずっと換算がたいへんだから適当にお金を出して 相手にとってもらった。また買物をして おつりをもらうときは 品物をお金と

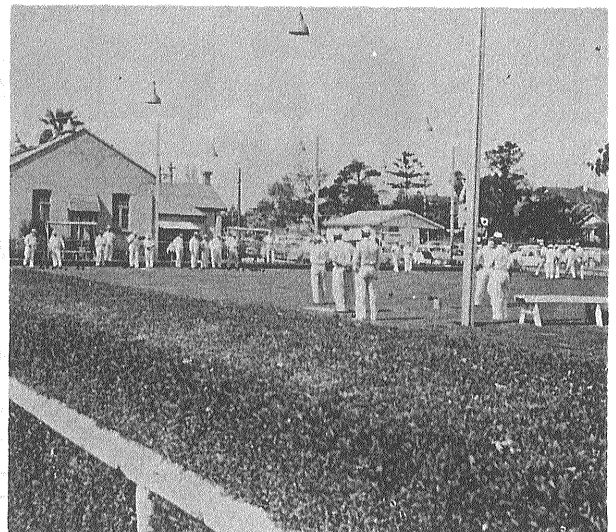
して(値段表)計算して これに私が出した紙幣(たとえば1ポンドとすれば)と同じになるまで小銭を加算してゆくのだから絶対につり銭をまちがえることがない。

銀行はイギリス系とオーストラリア系とあり 中央銀行にあたるのが **Commonwealth Bank of Australia** (1911)で 紙幣発行を行なっている(シドニー本店)。この他によくみられる一流銀行は **Australia and New Zealand Bank Limited (A.N.Z. Bank)** **The English, Scottish & Australian Bank, (E.S.A. Bank 1852)** **Bank of New South Wales (1817)** **The Bank of Australasia (1834)** **The Bank of Adelaide (1865)** **The National Bank of Australasia Limited (1867)** 等があり 各州に支店がある。この他地方にゆくと **Saving Bank** (貯蓄銀行)がよくある。そして地方の銀行によっては土地の案内とか 産業経済等について親切におしえてくれる人もいる。一般にサラリーを支払いは 個人が貯金または預金している銀行の口座に払い込まれ いわゆる小切手で買物の支払いをする人が多いようである。しかし労働者は毎週金曜日にサラリーを現金でもらっているのみだ。

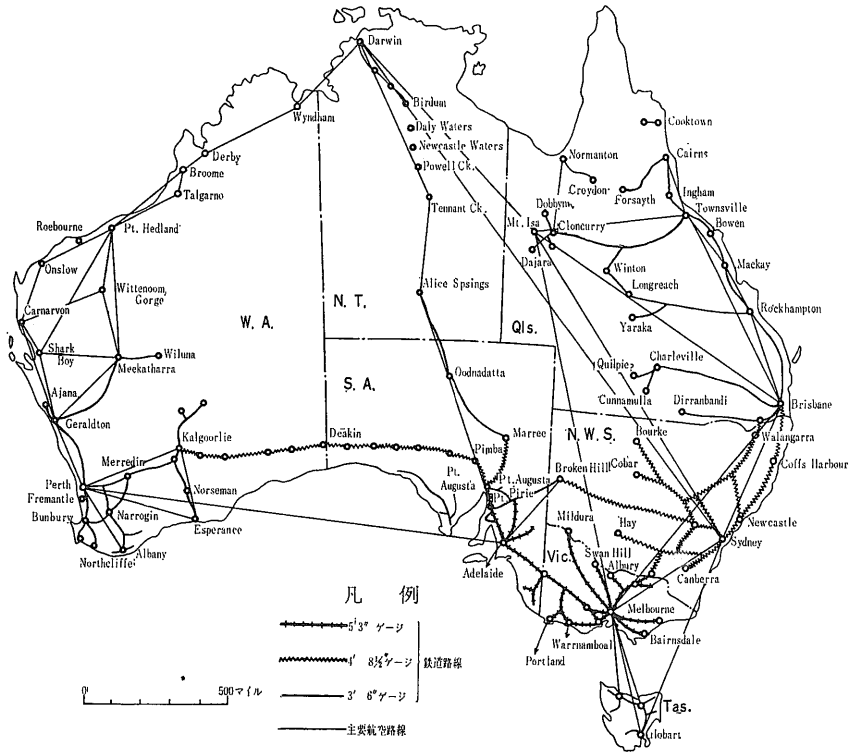
次に 交通機関 であるが オーストラリアは人口密度が低いので 現在では鉄道より自動車 航空機の方がよく発達していて 鉄道は東部地域を除いてはあまり発達していない。まず海外航空専門の会社(国営といわれている)は **QANTAS Empire Airways Limited** (カンタス オーストラリア人はカンタスという) 航空会社で これはシドニー空港を起点として世界各国に飛んでおり 日本には毎週2回飛んでくる。これは **Queensland and Northern Territory Air Servies** の略だといわれ



2) パース市内にみられる6階建フラット(アパートのこと) 地震がないので すべて赤褐色のレンガづくりである



3) パース市の住宅街で日曜日に **Bowling** (ボーリング)をたのしんでいる老人たち これは別名「ボッチェ」といわれるもので オーストラリアの国技ともいわれている



第2図  
オーストラリア  
の主要鉄道路線  
と主要航空路線  
図

ている。それ以外は民営で大きい会社としては **ANSETTANA** (ANSETT-Australia National Airway メルボルン) **TAA** (Transport Australia Airlines シドニー) でいずれもジェットまたはターボ・ジェット機である。

その他には各州に航空会社があり ローカル線を飛んでいる。**Q.A.L.** (Queensland Airlines Pty. Ltd. ブリスベン) **Airlines of N.S.W.** (Airlines of N.S.W. Pty. Ltd. シドニー) **Airlines of S.A.** (Airlines of Sth. Aust. アデレード) **MMA** (Mac. Robertson Miller Airlines Ltd. パース) **Ansett-M.A.L.** (Ansett Mandated Airlines ラエー パプア・ニューギニア地域) 等があるのでオーストラリア国内の旅行はもっぱら飛行機による方が便利である。次にオーストラリアの鉄道はすべて州政府が経営しているので 州別に鉄道の軌道の幅が異なる。これはたいへん不便なことで州境で鉄道を乗換えなければならないことが多いそうである。たとえばタスマニア州 クインズランド州 (Queensland Railways) 西オーストラリア州 (West Aust. Government Railways) はだいたいにおいて 狭軌 でゲージが 3'6" (日本の国鉄と同じ) ニュー・サウス・ウエルズ州 (N.S.W. Railways) は標準軌道の 4'8 1/2" (日本の東海道新幹線に当たる) で ビクトリア州 (Victorian Railways) は広軌の 5'3" である。ただし Prot Pirie (南オーストラリア州) から

Kalgoorlie (西オーストラリア州) までは標準軌道で 3年後には Kwinana まで延長するそうである。とくに南オーストラリア州 (Commonwealth Railways) は狭軌 標準軌道 広軌の3種類が走り複雑である(第2図)。

各州の鉄道は 連邦鉄道委員会によって許可制をとっている。この委員会本部はメルボルン市にある。主要鉄道路線を示すと 下記のとおりで ジェール車が大部分である。

路 線		軌道幅		距 離	
1)	Trans-Australian (Port Pine Junction から Kalgoorlie まで)	ft. in.	m. ch.	m.	ch.
		4 8 1/2	— —	1,108	16
2)	Central Australia (Port Augusta から Hawker まで)	3 6	65 24	—	—
	" (Stirling North から Marree まで)	4 8 1/2	217 15	—	—
	" (Marree から Alice Springs まで)	3 6	539 79	822	38
3)	North Australia Darwin から Birdum まで)	3 6	— —	316	40
4)	Australian Capital Territory (Queanbeyan から Canberra まで)	4 8 1/2	— —	4	75
(合 計)		— —	— —	2,252	9

高速度道路 (ハイ・ウェイ) はよく発達しているのでトラック 乗用車 バス ジープがあらゆる地域でみら

れる。すなわちオーストラリアの統計によると だいたい3人に1台の割りりで自動車をもっていることになり その内訳(1961-1962)をみると 一般車 2,185,088台 商業車 868,807台 モーター・サイクル 85,369台 合計 3,139,264台となる。さらに日本と比較してみると下記のようなになる

(単位:台) 1962. 1. 1. 調査

国別	区分	乗用車	トラック	バス	オートバイ	農耕用トラクター	(合計)
オーストラリア		2,114,000	863,000	13,000	0,000	240,000	2,990,000
日 本		637,000	1,680,000	63,000	1,500,000	5,000	2,380,000

日本は各種自動車の合計では27人に1台となり乗用車だけでみると204人に1台となる。オーストラリアは4.7人に1台の割りりである。この国ではアメリカと同じようにくるまは必需品で 乗用車は“Holden”について“Ford Falcon”が多く走っている。他は小型であるが 外国車としては オースチン フォルクスワーゲンを始めとして 日本製のブルーバード(日産) トヨタのジープ等も少しであるが走っている。またちよつとした都会には 貸車屋(Rent-a-Car)を始めとして タクシー(Taxi)がある。タクシーは すべて無線車で タクシー会社専用の電話ボックスが街路のところどころにおいてあって その電話ボックス(Free Telephone Box 無料)から依頼すると3~5分分でタクシーがやってくる。これはホテルでたのむときも同じである。料金は州によつて異なるが だいたい 基本料金(Flag Fall)は 2shilling(約80円)で あとは1マイル(1.6km)ごとに 0/1/6 (1shilling 6 pence=約60円)である。運転手にきいた話によると タクシー会社は無線指令室だけあって あとは個人の車にとりつけてある無線機の使用料を歩合によつてとるだけで 自分が今日働きたく

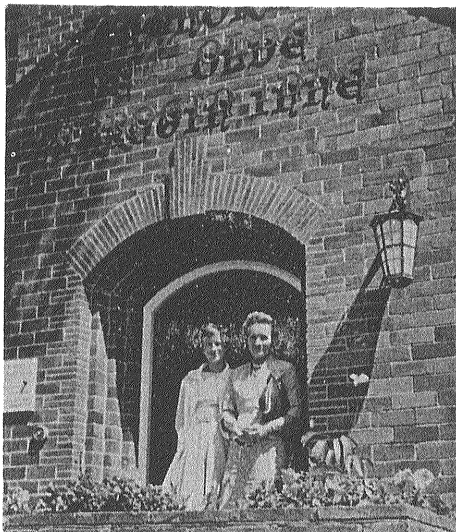
なければ勝手にやすむといった具合に きわめて のんびりとしたものである。

一般のサラリーマンが車をもっているのに どうしてタクシーが必要かと思うのだが 中都会以上になると 観光客とか買物のかえりに荷物が多くなりすぎたりして オーストラリア人でもよく利用するので シドニーあたりでは空車をさがすのに苦勞することがある。また貸車屋であるが オーストラリア全土に事務所と連絡所をもつ AVIS (Rent-a-car)は1時間 10 shilling(約400円)で 1日だと 35~40shilling (1,500~1,620円)で 1週間だと 10/10/—~12/10/— (8,500~10,000円)になり小型車だとだいたい半分分で貸している。ただし保証金がいるようだ。いずれにせよ車がないと旅行するのは全く不便な国である。

### オーストラリアの行政

オーストラリア各州植民地の自治権は 1850年に英帝 国法によつて確認され 各州はそれぞれ憲法を制定し 英国議会の承認をうけ 1855年にニュー・サウス・ウェルズに責任内閣制度が成立した。ついで 1856年にはビクトリア 南オーストラリアおよびタスマニアに自治制ができた。クインズランドは1859年に ニュー・サウス・ウェルズから分立して独立植民地となった。なお 西オーストラリアは 人口が少ないのと財政が豊かでないので 1890年になってやっと独立したのであるが その後1901年に各独立植民地は連合して 連邦組織になっている。

連邦政府は連邦議会をもち 行政的には各州共通の 軍事 外交 貿易および関税 養老年金の支払等と直轄地域と委託地域の管理にあたっている。各州にはそれ



4) パース市郊外のダムとか果樹園などを案内していた だいた キース・ペカー夫妻の奥さんとお嬢さん (16才) 郊外にある古風なレストランの入り口で

5) メルボルン市一番の繁華街にある有名な Myer デパート前の人通り



ぞれ 州政府 と 州議会 があつて 鉄道 警察 教育 社会施設 各種産業の監督を行なっている。

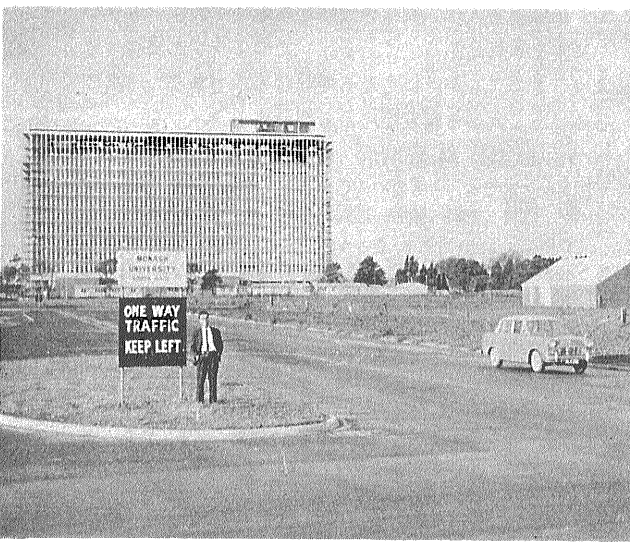
そして 英国はエリザベス 2 世女王の任命による総督 (Governor-General 15 代目 Viscount De L'Isle) を オーストラリアの元首代表者としている。各州には またエリザベス 2 世女王の任命による 州総督 (State Governor) が 6 人 各州の首相とともに存在している。

これらの総督は伝統的にイギリス人しかねないようである。現在の 連邦政府の首相である Mr. R.G. Menzies (1949—現在 この人は1934—1941にも首相をしている) は 17 代目である。総督の仕事は 連邦議会の開廷 閉廷 休会 解散等の批准と 連邦政府の首相の任命を行なうだけで これは州総督の場合も全く同じである。また総督には必ず 2 人のオーストラリア人 長老格の人が顧問でついている。オーストラリアでは 7 つの政府 (連邦 1 州 6) と 14 の議会 [連邦議会 (上 下院) と州議会 (上 下院)] からなり その総議員は約 610 名だということだ。政党は Australian Labour Party (オーストラリア労働党) がニュー・サウス・ウェルズ州 南オーストラリア州 およびタスマニア州に強く Liberal Party (自由党) と Country Party (地方党) の連合グループ (Lib.-C.P.) はビクトリア州と西オーストラリア州に強いといわれている。その他 Australian Democratic Party (オーストラリア民主党) と Liberal Party の連合グループ (A.D.L.P.) がある。連邦政府には

- (1) 貿易省 (Trade)—J. McEwen 副首相
- (2) 国防省 (Defence)—A.G. Townley
- (3) 内務省 (Interior)—G. Freeth ここに National mapping office がある
- (4) 海軍省 (Navy)—J.G. Gorton
- (5) 外務省 (External Affairs)—Sir. Garfield Barwick

- (6) 一次産業省 (Primary Industry)—Mr. C.F. Aderman
- (7) 地域省 (Territories)—Mr. P.M.C. Hasluck
- (8) 大蔵省 (Finance)
- (9) 社会保険省 (Social Services)
- (10) 国土開発省 (National Development)—Hon. W.H. Spooner (次官は Dr. H.G. Raggatt である)

にわかれ 私たちの地質鉱床調査にかんする連邦政府の調査機関は この国土開発省の下にある 連邦鉱物資源・地質・物探局 (Commonwealth Bureau of Mineral Resources, Geology and Geophysics 局長は P.B. Nye) によって行なわれている。この局は鉱物資源部 地質部 (Geological Section, N.H. Fisher 部長) 物探部 (Geophysics Section) に分かれ 日本の地質調査所と同じような使命を果たしている。(住所は Dept. National Development, Melbourne Building, City, Canberra) この他連邦政府は一次産業開発研究のために 連邦科学工業研究機関 (The Commonwealth Scientific and Industrial Research Organization 略して C.S.I.R.O. 長官 J. G. Gorton) をメルボルンに建設して 基礎研究を行なっている。この研究機関の中に 鉱石研究課 (Mineragraphic Section) があつて 今はもう故人となった著名な鉱石研究家であつた Dr. A.B. Edwards (メルボルン大学講師) がおられた。現在は彼の恩師であるメルボルン大学名誉教授の Dr. F.L. Stillwell が長となつて研究を続けられている。また各州政府には 鉱山局 (Department of Mines) と 地質調査所 (Geological Survey) があつて 主として鉱物資源調査 (地質鉱床 試錐 物探) に従事している。図幅調査は 1 マイル図幅 (1 マイル=1 インチのこと) (日本の 5 万分の 1 に当たる) 4 マイル図幅 (日本の 25 万分の 1 に当たる 地形図だけだと 5 shilling である) 8 マイル図幅 (日本の 50 万分の 1 に当たる) に分かれ 連邦政府は 4 マイル図幅を主体にして 機械



6) メルボルン市郊外に建設中の総合大学である Monash 大学の入口 左にたつているのは大町技官



7) Monash 大学のうらにある野外映画劇場 中央の白いボードがスクリーンで 筆者の右はしにぶらさがっているのはマイクロホン 自動車はやや傾斜したところにのり入れ マイクロホンを車内にもちこんで



的な割り当てでなく 地質学的なテーマ別(たとえば地質構造的問題の解決のためとか 特殊な化石床の研究・変成岩の研究)にみた地域を選んで 図幅調査を進めているようである。ただし国の面積が大きいので 中には かんがい用水ダム建設のためとか 地域的な工業開発の基礎調査のためにとくに急を要する図幅調査もあるようである。

次に地質(Geology)教室をもっている大学は次の8校である。

- 1) メルボルン大学(University of Melbourne) 地質・鉱物教室(Geology and Mineralogy, Prof. E. Sherbon Hills)
- 2) アデレード大学(University of Adelaide) 応用地質教室(Economic Geology, Prof. E.A. Rudd)
- 3) タスマニア大学(University of Tasmania, Hobart市) 地質教室(Geology, Prof. S. Warren Carey)
- 4) シドニー大学(University of Sydney) 地質教室(Geology, R.L. Stanton)
- 5) クインズランド大学(University of Queensland, Brisbane市) 地質教室(Geology)
- 6) 西オーストラリア大学(University of Western Australia, Perth市) 地質教室(Geology)
- 7) ニュー・サウス・ウェルズ工科大学(New South Wales University of Technology, N.S.W. 州 Kensington市) 地質教室(Geology, Lecturer J.L. Lawrence)
- 8) ニュー・イングランド単科大学(New England University College, N.S.W. 州 Armidale町) 地質教室(Geology, Senior Lecturer, A.H. Voisey)

## オーストラリアの教育

オーストラリアの一般教育は各州によって独立的に行なわれているのであるが その組織は英本国にならっているようである。まず連邦政府に 連邦教育事務局(Commonwealth Office of Education 1945年成立される)といわゆるへき地教育のために オーストラリア放送教育委員会(Educational Broadcasts of the Australian Broadcasting Commission)があり 各州には 教育省(Minister for Education)と 州放送教育局(State Broadcasting Stations)がある。義務教育は州によって多少ことなるが だいたいにおいて 6才(7才)―14才(15才)までである。まず 公立小学校(Public Elementary School 修業年数6カ年)に入るが この小学校卒業のときに試験がある。もしこれに失敗してもこの小学校には14才(または15才)までしかおいてくれないようである。次に 高等学校(High School 修業年数5カ年が普通教育を行なう)に入るのであるが これがジュニア(Junior)コース(3カ年)とシニア(Senior)コース(2カ年)に分かれる。そして一般の家庭ではだいたい Junior High School(3カ年)を卒業して 16才から実

社会に出て働く人が多い。オーストラリアは労働者の天国だといわれるだけあって 早く実務につく傾向が一般に強い。これは男子の平均結婚年令が20才位で 女子は18才位といわれている実情をみてもわかると思う。

次に Senior High School の州内一斉卒業試験に合格すると大学の入学資格がえられる。大学は一般に3カ年で医学は5カ年である。そして 各州の首都には必ず 州立大学がある。この他に普通教育の高等学校にゆかないで各種の 実務学校(工業学校 Technical School 農業学校 Agricultural School 商業学校 Business School 3カ年)に行く人も多い。またこの公立学校以外に各宗派別の教会関係によって経営されている私立学校(Private School)が多く とくに資産階級の子弟は英本国と同様に この種の学校に行く人が多いようである。そこで州別にみた公・私立学校の比率をみると次のとおりである。

州 名	公立学校*(生徒数)	私立学校*(生徒数)
1. 西オーストラリア州	500校(70,000人)	220校(25,000人)
2. クインズランド州	1,600(200,000人)	275(50,000人)
3. ニュー・サウス・ウェルズ州	2,500(450,000人)	750(150,000人)
4. ビクトリア州	2,000(300,000人)	500(100,000人)
5. タスマニア州	323(53,500人)	60(10,000人)

\* 小学校・高等学校を含む

都会ではあかぬげした制服をきて カンカン帽子とか ベレー帽をかぶった私立学校の生徒をよくみかけた。そして寄宿舎生活が多いようで 校庭でクリケットをやっているのがみられた。

なおこの表をみてもわかる如く ニュー・サウス・ウェルズ州は歴史も古く 一番教育に熱心であると同時に教育の指導的地位にあるようである。生徒は日本ではちょっとみられない風景であるが 小学生は小さいトランクに弁当を入れ 高等学校になるとやや大きいトランクに本を入れてあるいている。このトランクはバスをまつときのこしかけにもなる便利なものである。次に各州にある大学を創立順序から紹介する。

- 1) **University of Sydney** (1850年10月1日創立) オーストラリアでもっとも古い大学である(農科 芸術 歯科 医科 理科 工科 獣医 法科 経済 学生約7,000人) この他にニュー・サウス・ウェルズ州には University of Technology (Newcastle市) New England University of Technology (Armidale市 250人) New South Wales University of Technology (Kensington町 4,000人) と40の州立単科工大(70,000人)がある またシドニー市には各宗派別の単科大学(男 女)が6つある
- 2) **University of Melbourne** (1853年創立) はオーストラリアでもっとも大きな大学である(農科 芸術 社会 歯科 経済 教育 物理 工科 医科 理科 音楽 法科 薬学 商科 教授 397人 学生 7,283人) この他に分校がメ

メルボルン市郊外 Mildura に1946年頃から建設が始まり現在 **Monash University** (総合大学) というとても広い敷地の中に建設中であった。この他にビクトリア州には36の州立単科工大とメルボルン市には宗教関係の単科大学が5つある

- 3) **University of Adelaide** (1873年創立) (法科 音楽 医科 工科 歯科 農科 理科(地質)) アデレード市の北方台地の東端にある この他に宗派別単科大学(男子1校 女子1校)が2つある
- 4) **University of Tasmania** (1890年創立) (ホバート市) (理科 工科 医科 農科 法科 2,000人)
- 5) **University of Queensland** (1909年創立) (ブリスベン市) (理科 工科 医科 農科 法科 商科 歯科 4,000人)
- 6) **University of Western Australia** (1911年創立) (パース市) 西オーストラリア州は幼稚園から大学まで無料である そして大学はパース市郊外 Nedlands にある美しい大学である (医科 音楽 工科 理科 農科 法科 教育を始め16学科からなり 学生も14,000人に達している)
- 7) **Australian National University, Canberra University College** (1946年創立) (キャンベラ市) はオーストラリアでもっとも新しい大学で 主として大学院学生を教育するところで 医学 物理学 社会科学 太平洋問題研究を主としている

キャンベラ市には 王立陸海軍士官学校 (**Royal Military College**) がある。この他にオーストラリアらしいものとして 無線による教育がある。

これは主として 西オーストラリア州 北部地域のへき地に住んでいる大農場の子弟教育にあたっているもので われわれがキャンプ地に備えた無線をきいていると 朝10時頃から小学校の低学年教育を行なっている。これは無線による個人教育みたいなもので 先生が数のかぞえ方から A B C の発音の練習に始まって 生徒がわからないときは無線で質問している。したがってこの無線はまた教育ばかりでなく 病人や 仕事の連絡 電報の知らせを始め事故 天災 視察等の通知などあらゆる

の使命をもっているもので 私たちが日常使っている電話以上に重要なものである。これら各個人の無線はキー・ステーションによって結ばれ お互いの連絡を密にしている。

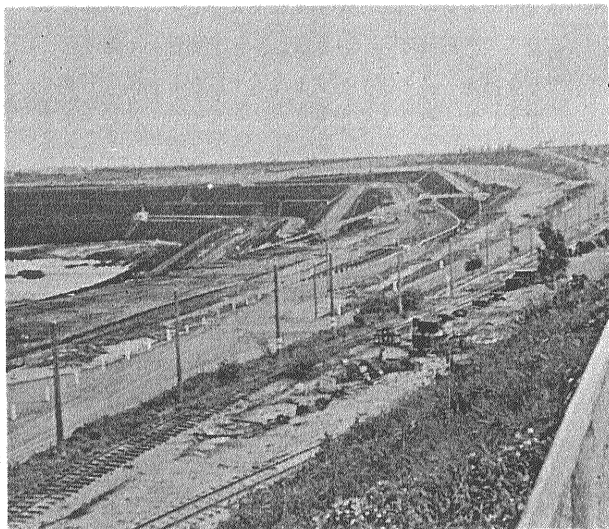
### オーストラリア人の生活

オーストラリアは世界でも観光収入(輸出額にたいして占める割合(%)) 源の多い国であるといったら 多分びっくりする人が多いであろう。すなわち1位のイタリアが約20% 次いでスイスが15.5%で オーストラリアは14.3% (1958年調査) で日本などは わずかに3.4%にすぎない。このようにオーストラリアにくる諸外国の観光客が多いのは この国の開拓が新しく 初代総督アーサー・フィリップが植民地開設を宣言(1788年)してからまだ175年で 連邦組織になってからわずかに62年位の若い国で とくに第2次大戦が終了してから国際社会におけるオーストラリアの占める位置の重要性が深まりつつあることも一つの理由になるかもしれない。

いずれにせよ国の面積が大きくて 人口が少ないのであるから人間ものんびりしていて とても親切であるが 一面イギリスの風俗 習慣はそのまま受けつがれ 中々気位がたかく 食事 社交はたいへんうるさいところである。それでもイギリス風のパース市 アデレード市メルボルン市とアメリカ風のシドニー市とそれぞれ特色ある都会の美しさは忘れることができない。とくにオーストラリアで強く残っているイギリスの習慣をみると まずホテルにとまると必ず朝 6.30~7.00 までのあいだに **Morning Tea** (モーニング・ティービスケット付のききともある) をもってくる。だからいらぬ人は前日にことわらないと 朝早くから起こされること



8) メルボルン市とこのヤルン (Yallourn) 褐炭鉱山を案内していただいた兼松KKの吉岡駐在員とブルーパード



9) メルボルン市の東方約100マイルのところにある世界一のヤルン褐炭鉱山における露天掘風景 採掘機械は東ドイツから輸入されている

になる。また食事はナイフとホークをつねに使って上手に食べなければならず片手にホークだけで食べることはゆるされていない。またスープは決して音をたてずに飲まねばならずなれないと肩がこるような気がする。煙草は民営で種類が多くシガレットはフィルター付20本入が3 shilling 6 pence 位でオーストラリア人(男)は一般に煙草をすう人は少ないがビールを飲む人は多い。小都会でも大都会でも同じであるがホテルに付随して必ず Public House (パブリック・ハウスを略して「パブ(Pub)」)がありここでは Soft drinks (Coca Cola コークという) Ginger beer (ジンジャー・ビアー) Gingerade (ジンジャーエード) Orangeade (オレンジエード) Lemonade (レモネード びん詰とかん入りとある) Beers (draft beer 生ビール) を始めとして lager (アルコール分3%) ale (アルコール分4%) porter (アルコール分5%) stout (アルコール分5~6.5%) bitter (アルコール分7%) に分かれている。Wines (ブドウ酒類) Spirits (アルコール分40%以上の強い酒) 等も飲ませるのであるがこの Pub (パブ) にきて飲む大部分の人は生ビールである。この生ビールはグラスの種類によって値段が異なる。

- ① Poney glass (ポニー・グラス 1 shilling=約40円)
- ② Medium glass (メジウム・グラス 1 shilling 2 pence =約47円)
- ③ Usually glass (ユージュアリー・グラス 1 shilling 4 pence=約53円)
- ④ Biggest glass (ビッグスト・グラス 1 shilling 8pence =約67円)

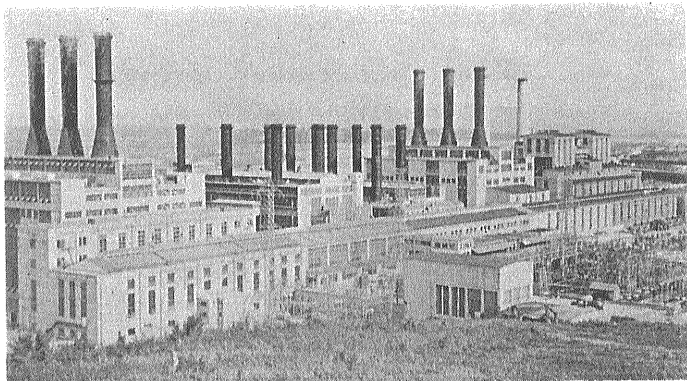
の順にわかれ普通にビールというと Medium glass か Usually glass を出してくれる。この生ビールの値段は場所によって多少ことなるがここに述べたのは西オーストラリア州ポート・ヘッドランドのパブの値段である。このパブにおける飲みかたと支払いであるがたとえばオーストラリア人と3人で飲むとすると初めに注文した人が3人分を支払うそうすると次の人がまた3人分支払いこれが終わると次の人が3人分支払うというように3人が1回づつ平等に支払うのでもしも自分がこれ以上飲めないときは1回まわったときかまたは最初に自分が支払いをしてあとは断わらないと次から次へとビールを飲んで支払いをつづけなければならない。また日本式に初めに慮慮すると次の機会からビールを飲ませてもらえないかもしれない。すなわち酒の弱い人には別に無理に飲ませないのである。この点は日本とちがってきわめて紳士的である。

大都会ではホテル以外に別にパブとかサロン(これは女の人が入れる)があつて午後1時から6時まで開店

し1時間休んで次は7時から9時まで店をあけている。しかしいなかにくくと朝9時から夜の9時まであいている。そのかわり土曜日と日曜日は休んで酒もうってくれず旅行者はホテルで飲む以外には自宅に酒でも買ってある家でもゆかねばお酒にありつけない。

それからサラリーマン労働者は一週5日間しか働かず店屋は土曜日の午後から月曜日の朝9時まで休みとなる。またふだんは午後6時で閉めてしまうのでよほどうまく時間を利用して買物をしないと買いそこなう。それでもあいている店がある。それはミルク・スタンド(ソフト・ドリンク おかし ケーキ くだもの位しかうっていない)である。また夜6時以後の散歩はもつぱら Window Shopping (ウインドウ・ショッピング)と称し店頭窓ガラス越しにこんどは何を買うかと品定めをしながら歩くだけである。旅行者にとってはあわれであるがしかしなれるとまた楽しいものである。またオーストラリアにもスーパー・マーケットが発達し大都会の郊外には有名店が支店をだして住宅街に大きな Shopping Center をつくりその周辺には広大な面積をもつ無料駐車場ができていてご婦人方のサービスにつとめている。とにかくオーストラリアのように人の少ない国ではなるべく人を使わない工夫をしなければならぬので合理的にすべてが運営されている。たとえばバスは運転手が1人で車掌の役目もやり遊園地ガーデンは入口だけに人がいる。ホテルの食堂とかレストランのウェイトレスは中年から老年に近い女の人が働いている。(パート・アルバイトが多いそうである)その他に一般生活で忘れられないのは Tea time (お茶の時間)でこれは午前10時30分ごろと午後4~4 30分ごろにあつてどんな仕事(たとえばキャンプ生活をしていても)をしていても必ず集まつてお茶とビスケットあるいはスコーン(Scone)に生ミルクとジャムをつけてたべる。

最後におつたえたいのはシドニー市の Kings Cross (東京の新宿みたいところ)通りにある Japanes Sukiyaki House (午後6.00-12.00) では日本の料理がたいてい食べられる。たとえばウドンとうふ水だきさしみスキヤキ等がすべて日本製食器で出される。しかも着物をきた日本女性(戦争花嫁のアルバイト)がウェイトレスであるから日本語がつかえしばしの間オーストラリアにきていることを忘れさせてくれる。ただしこの店は最低料金制を採用しているので1人2ポンド以上はとられる。(おわり) (筆者は飯塚部)



10) ヤルルの褐炭を利用しているビクトリア州立火力発電所



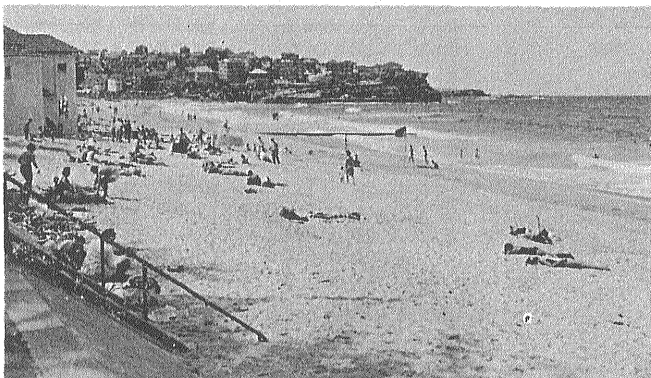
11) ヤルル町のショッピングセンター付近  
を行くオーストラリアの小学生たち



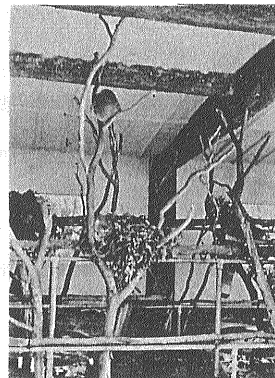
12) 南オーストラリア州の首都アデレード市を飛行機からみた風景



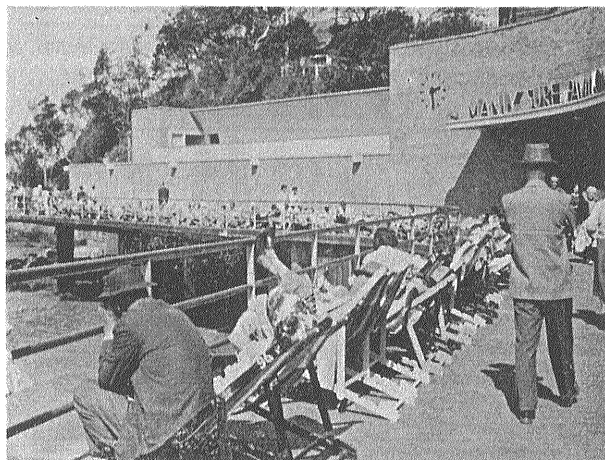
13) シドニー郊外の有名なボタニカル・ガーデン（動物園）内からながめた オーストラリア人ご自慢のシドニー・ハーバー・ブリッジ



14) シドニー郊外マンリー海水浴場風景



15) シドニーのボタニカル・ガーデンの入口にあるオーストラリア特産のコアラ・ベアー 上方の木枝にうづくまっている



16) シドニー郊外のマンリー海水浴場にある水族館前で 一日中ひなたをよこしているオーストラリア人（老人が多い）



17) シドニー市のオフィス街と住宅街を結ぶ連絡船（約30分）（大人1人6ペンスとられる）